碧い風

きらめきの地域デザイン

あおいかぜ

特集

物語で地域の魅力を再発見 コンテンツツーリズム

109
2024 February

碧い風

きらめきの地域デザイン

あおいかぜ

青い海と緑の山々に恵まれた中国地域に、地域づくりの風が吹き始めています。
自分たちの大好きなこの街を少しでも良くし、子どもたちにしっかりと手渡したい。
こんな気持ちで頑張っている人たちがいっぱいいます。
「碧い風」は、そんなまちづくり人を結びながら、自分たちのまわりにある魅力を高め、
きらめくような中国地域にしていく媒体にしていきたいと思っています。
強くはないが、楽しい風。
そんな風を、みなさんと一緒に巻き起こしたいと考えています。

109
2024 February

CONTENTS

特集 物語で地域の魅力を再発見 コンテンツツーリズム

3 ―視点― コンテンツツーリズムが生む「共感」と「交流」が地域の未来を育む 山村 高淑（北海道大学 観光学高等研究センター 教授・センター長）

6 ロケ誘致で地域の魅力を発信し、地域活性化やまちおこしを実現 岡山県フィルムコミッション協議会（岡山県）

9 世界中で人気のコナンの聖地としてまちの魅力を育む 鳥取県北栄町

12 ドラマ撮影が紡ぐ福澤克雄監督との縁 作品やロケ地巡りを通じ、島根の魅力を発信 島根県

14 地域に生きる企業家群像 109 株式会社トーフミート 代表取締役 村上 英雄（山口県宇部市）

17 キラリ、輝く元気企業 82 株式会社レニアス（広島県三原市）

20 夢紡人／ゆめつむぎびと 105 一般社団法人コノヒトカン 代表理事 三好 千尋（岡山県倉敷市）

23 この名酒にこの一品 32 小笹屋竹鶴 生酛 純米原酒 魚飯（広島県竹原市）

24 伝統芸能を継ぐ人びと 10 因幡の麒麟獅子舞（鳥取市）

26 オンリーワンのご当地ミュージアム 2 奥出雲たたらと刀剣館（島根県奥出雲町）

28 山をあるく 20 右田ヶ岳（山口県）

p.6

p.9

p.14

p.17

p.20

p.24

p.26

表紙写真／映画『ドライブ・マイ・カー』の撮影地にもなった広島市環境局中工場内のエコリアム（工場見学スペース）
表紙写真提供／広島市環境局中工場
目次写真提供／岡山県フィルムコミッション協議会、倉恒 弘美、株式会社トーフミート、株式会社レニアス、
一般社団法人コノヒトカン、宇倍神社
デザイン／有限会社シフト

＊本誌は再生紙を使用しています

特集 物語で地域の魅力を再発見 コンテンツツーリズム

POINT OF VIEW
視点

コンテンツツーリズムが生む「共感」と「交流」が地域の未来を育む

山村 高淑
北海道大学 観光学高等研究センター 教授・センター長

コンテンツツーリズムの定義と秘められた力

コロナ禍を経て観光への期待が高まる中、ネット配信の普及なども影響して「コンテンツツーリズム」が注目されている。

その言葉自体は、2004（平成16）年制定「コンテンツの創造、保護及び活用の促進に関する法律」内のコンテンツの定義[※1]の下、翌年に国土交通省・経済産業省・文化庁がまとめた調査報告書[※2]で初めて公の場に登場した。そこではコンテンツツーリズムを「地域に関わるコンテンツ（映画、テレビドラマ、小説、まんが、ゲームなど）を活用して、観光と関連産業の振興を図ることを意図したツーリズム」と定義し、その根幹は、地域に「コンテンツを通して醸成された（中略）物語性を観光資源として活用すること」としている。行政の定義でなじみづらいため、私はもう少し分かりやすく、コンテンツを「人間の創作物としてのメディア作品の中身・内容」とし、コンテンツツーリズムを「作品のストーリーや作品の一場面、あるいは登場するキャラクターが動機や資源となった観光形態」と捉えている。

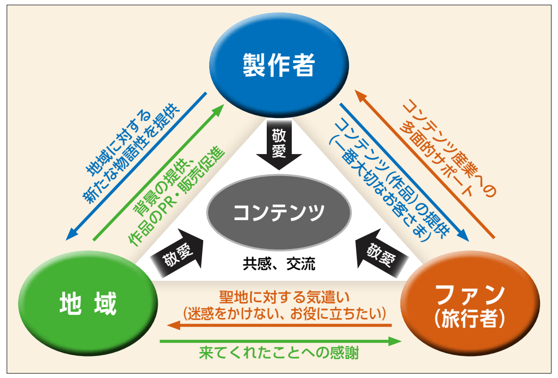
その特徴、すなわち他のツーリズムとの違いは大きく3点ある。1点目は、創作物であるコンテンツが知的財産である点だ。それゆえ、近年の作品であれば著作権が発生し、観光に活用する場合はその調整が求められる。2点目は、本来観光地ではない場所が目的地となり得ることである。新しい地域資源を生み出す可能性がある一方で、作品の舞台となった場所に多くのファンが押し寄せ、ファンと地域との間に軋轢が生じるといった恐れもあるのだ。3点目は、そのリスクの半面、ファンは好きな作品世界に関わりたいという「参加型文化」を持つことから、地域に「交流」そして「共感」という価値が生まれやすい点だ（図1）。

つまりコンテンツツーリズムには、作品の世界に共感して、ファン同士や、ファンと地域住民がつながり合える大きな力が秘められているのである。

垣根を越えた交流で新たな地域文化を創出

先駆的な事例としてよく知られるのは、埼玉県鷲宮町（現・久喜市）の例だ。2007（平成19）年にTVアニメ『らき☆すた』が放映され、作品の舞台となった鷲宮神社（作品内では鷹宮神社）に多くのファンが訪れるよう

図1　コンテンツツーリズムにおける三者が良好な相互関係を構築するためのモデル



出典／山村高淑『アニメ・マンガで地域振興』（東京法令出版、2011年）を基に作図

profile

山村 高淑
〈やまむら・たかよし〉
静岡県出身。北海道大学農学部卒業、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。博士（工学）。京都嵯峨芸術大学（現・嵯峨美術大学）専任講師、同助教授、北海道大学観光学高等研究センター准教授を経て2019年4月より現職。専門は文化観光開発論、コンテンツツーリズム論。観光庁「アニメコンテンツを活用したインバウンド振興等に関する意見交換会」座長、埼玉県アニメツーリズム検討委員会座長等を歴任。著書に『コンテンツツーリズム メディアを横断するコンテンツと越境するファンダム』（北海道大学出版会、2021年）他多数。

文・構成／清水 英孝

1 2 2011年にアニメ『花咲くいろは』の劇中で描かれた祭りを金沢市湯涌温泉街が再現してスタートした「湯涌ぼんぼり祭り」は2023年に11回目の開催を迎えた。コロナ禍の2021年には10年間の軌跡をまとめた書籍が発行されている

写真提供／1 湯涌温泉観光協会
2『湯涌ぼんぼり祭り2011-2021～アニメ「花咲くいろは」と歩んだ10年～』（一般社団法人 地域発新力研究支援センター、2021年）

になった。鷲宮町では、イベントや伝統行事、グッズ開発などをファンと地域住民が協働で行うなどして地域を盛り上げる動きに発展した。

この頃からファンの間では作品の舞台や作者の故郷を「聖地」、その地を訪れることを「聖地巡礼」と呼ぶことが一般化した。さらに東日本大震災が転換点となり、全国の観光地が打撃を受ける中で、「自分にできることはないか」という思いから、ファンが地域にコミットする動きが活発化する。一方製作側にも、徐々にノウハウが蓄積され、地域と良好な関係を築きつつコラボレーションを行う作法が定着していった（図2）。

2011（平成23）年放映のTVアニメ『花咲くいろは』の舞台、石川県金沢市の湯涌温泉（作品内では湯乃鷺温泉）では、地元の温泉観光協会とアニメ製作委員会が中心となって、アニメに登場した架空の「ぼんぼり祭り」を、実際に「湯涌ぼんぼり祭り」として放送年に開催し、多くのファンを集めた。祭りはその後、地域の行事として定着し現在に至る。この例もまた、コンテンツツーリズムがきっかけとなりそのコンテンツが地域の文化として定着した理想型であるといえよう。

中国地域はコンテンツの宝庫

中国地域のコンテンツツーリズムの代表的なまちとしては、広島県尾道市が挙げられる。1953（昭和28）年の小津安二郎監督の名作『東京物語』や1980年代の大林宣彦監督の尾道三部作（『転校生』『時をかける少女』『さびしんぼう』）があり、尾道の景観や文化遺産と映画で描かれた物語が強く結び付き、尾道の魅力が引き出されている。時代背景は違っても作品に共感できる部分があり、多くの映画ファンを今も惹きつけてやまない。

尾道だけでなく、中国5県は小説や映画、アニメなどに登場する舞台が多数存在する貴重な地域である。また、『古事記』『日本書紀』『平家物語』なども誰もが知る代表的なコンテンツであり、その舞台は中国地域に広くまたがる。例えば『平家物語』は、作家の古川日出男氏が2016（平成28）年に現代語訳した著書を基に人気声優陣とクリエイターによりアニメ化され、2022（令和4）年にテレビ放映された。古い作品であっても、こうしたメディアミックス等でリバイバルされれば時代を超えて語り継がれ、注目を集める。そうした作品も含め非常に分厚い集積があり、まさにコンテンツの宝庫といえよう。

推進に向け、自治体や地域側にできること

コンテンツツーリズム推進に向けた自治体や地域の取り組みとしては、①フィルムコミッションなどによるロケ誘致、②その地域が舞台である既存作品の活用、③自治体予算による地域作品の製作、の大きく三つが考えられる。

①については、取り組む自治体は少なくないが、製作者側に作品イメージと決定権があるので、誘致の成果を上げることは容易ではない。

図2　アニメコンテンツツーリズムの系譜

タイアップ試行期	2000年代半ば	「YouTube」「ニコニコ動画」等の配信サービス開始、iPhone 日本発売（誰でも情報発信が可能となる）	
	2007	「青山剛昌ふるさと館」オープン 鳥取県北栄町	「名探偵コナン」作者の生まれ故郷である北栄町が事業主体
		「らき☆すた」 埼玉県鷲宮町（現・久喜市）	後に地元商工会×製作者×ファンのコラボレーションモデルを確立
タイアップ確立期	2009	「戦国BASARA」 宮城県仙台市、白石市	地場産業×製作者のコラボレーション方式を確立しアニメキャラクタービジネスを地域展開
	2010	OVA＊「たまゆら」 広島県竹原市	地域事業者×製作者のタイアップを長期展開
	2011年	東日本大震災（地域貢献意識が高まる）	
地域重視・多角展開期（地域事情を配慮したタイアップへ）	2012	「ガールズ&パンツァー」 茨城県大洗町	地域と製作スタッフの良好な交流がその後の聖地の継続につながった好例
	2013	「Free!」 鳥取県岩美町	女性ファンによる聖地巡礼ブームを起こす
		「恋旅～True Tours Nanto」 富山県南砺市	市が地元制作会社に委託した作品で、現地を訪れると視聴できる仕組みが話題に
	2016	「君の名は。」 岐阜県飛騨市古川町ほか	世界的ヒットで聖地巡礼のインバウンド需要を喚起。「聖地巡礼」が流行語となる
	2017年	一般社団法人アニメツーリズム協会が「訪れてみたい日本のアニメ聖地88」の発表を開始（聖地巡礼の一般化）	
	2018	「ゆるキャン△」 山梨県、静岡県、長野県各地	聖地巡礼がキャンプブームに結び付き、関連したキャンプガイド本が多数刊行される
	2019	「鬼滅の刃」 福島県会津若松市ほか	幅広い年齢層に聖地巡礼を広げ、モデル地以外にも作品イメージに似た場所が聖地とされる
	2020年	新型コロナウイルス感染症の流行（移動制限や旅行の自粛が続く）	
	2020	「邪神ちゃんドロップキック'千歳編」 北海道千歳市	自治体がふるさと納税を活用して地域アニメを製作した全国初の事例
		「進撃の巨人」The Final Season 大分県日田市	日田市生まれの作者と市民有志が主体となりキャラクターの銅像を設置
	2021	「シン・エヴァンゲリオン劇場版:||」 山口県宇部市	監督の生まれ故郷を舞台モデルの一部とした作品

○年次は作品の放送・上映の年
○製作側が舞台のモデル地を公表していない場合を含む
＊ OVA…Original Video Animationの略

3 「ドライブ・マイ・カー インターナショナル版」Blu-ray＆DVD好評発売中

4 5 2021年のカンヌ映画祭で日本映画史上初の脚本賞他全4冠を受賞。主に広島が舞台でロケ地巡りが人気だ

4 慰霊碑や原爆ドームも見える広島国際会議場の裏手にある広場での撮影の様子

5 ごみ焼却場である広島市環境局中工場の吹き抜けのある通路は、平和記念公園から海へと続く平和の軸線を建築で断ち切らないよう計画されており、映画の中でも紹介された

写真提供／4・5 広島フィルム・コミッション
©2021『ドライブ・マイ・カー』製作委員会

③については、自治体予算でアニメやドラマを製作した例はあるが、公共予算で作品をつくる場合には制約が生じ、せっかく製作しても面白みに欠けてファンに「刺さる」作品とならないことが多い。そんな中、北海道千歳市では2020（令和2）年に人気アニメ『邪神ちゃんドロップキック』のファンから寄せられたふるさと納税による寄付金を活用して、同アニメの新作「千歳編」の製作を行い、さらに目標額を大きく上回った超過分の寄付金は市の観光振興に充てられた。ファン参加型の新たな試みで、当然ながらファンの期待を裏切らない内容となったこの作品は大きな注目を集めたのである。

そして②については、本来すぐにできる取り組みであるが、実施している自治体は意外にも少ない。文学から映画やアニメまで新旧幅広く存在するその地域に関わる作品を、くまなく把握してリスト化し、それら作品を自然・農業・歴史・文化遺産と同レベルの地域の文化資源と捉えて整理した上で、どう地域振興や観光振興に結び付けていけるのかを考えることが重要である。過去の作品であれ今はネットで視聴できるものも多く、リストを公表するだけでその作品を見る人も増えるはずなので、このリスト化の作業を積極的に取り組む自治体が増えることを切に願う。

自治体によるコンテンツツーリズム推進事業は、これまでファンコミュニティだけで消費してきた作品を、観光資源として公に認め地域住民の暮らしの質の向上に還元する行為である。自治体はこの前提に立って、その作品が果たして行政が実施する事業にふさわしいか否かを慎重に検討すべきであり、難しいと判断した場合は、関与せず静かに見守るのが賢明であろう。自治体の動きとは関係なく、ファンは聖地を訪れるものである。

一方、ふさわしい作品であっても、製作者や権利者は民間事業者で、あくまで目的は地域振興ではなくビジネスであるため、コンテンツツーリズム振興においては、地元の商工会や旅館組合、観光事業者などを主役とし、民間事業者同士のビジネス交渉とコラボレーションで双方に利益をもたらす仕組みにすべきだろう。自治体はそのための調整役に徹するべきである。また自治体担当者は定期的に異動するため、長く続くコンテンツツーリズム事例は、地域の民間事業者が主体であることが多い。

日本のコンテンツの強みとコンテンツツーリズムの目指す姿

アニメや映画等、日本のコンテンツは国内の若い世代や外国人にも物語の面白さが伝わりやすく、人気が高い。民族や言語、文化、宗教などを超えて共感できる作品であれば、インバウンド誘致の大きな資源となり得る。日本の強みは、その核である物語創作側の層の厚さと蓄積、また江戸期から続いてきた、作品を娯楽として楽しむ庶民文化の定着にある。今後もクリエイターが日本の良さを伝える作品を生み続けられる環境づくりもまた、今ある重要な課題の一つといえよう。

今後コンテンツツーリズムを通して地域振興を図る上でのポイントは、その作品と、ルーツとなる地域の暮らしや遺産、産業といったヘリテージをいかに結び付けるかだ。作品に興味を持った人たちをうまくそこへ誘導できれば、コンテンツツーリズムはさらに広がりをみせる。

コンテンツツーリズム最大の魅力は、地域について知るだけでなく、作品を共通言語として、世代や国境をこえたつながりと交流が生まれることである。そうして信頼関係を築いた地域住民、地域外のファン、製作者の三者が地域のヘリテージを共に支えるシステムの構築こそ、これからのコンテンツツーリズムが目指すべきところである。

※1 映画、音楽、演劇、文芸、写真、漫画、アニメーション、コンピュータゲームその他の文字、図形、色彩、音声、動作若しくは映像若しくはこれらを組み合わせたもの又はこれらに係る情報を電子計算機を介して提供するためのプログラム（中略）であって、人間の創造的活動により生み出されるもののうち、教養又は娯楽の範囲に属するものをいう。（第2条）

※2「映像等コンテンツの制作・活用による地域振興のあり方に関する調査報告書」（2005年）

映画『とんび』撮影の様子。浅口市金光町大谷地区の商店街では撮影の１カ月以上前から通り全体を装飾し、まちを数日間封鎖してロケを実施した

©2022「とんび」製作委員会

ロケ誘致で地域の魅力を発信し、地域活性化やまちおこしを実現

岡山県フィルムコミッション協議会《岡山県》

岡山県へのロケ誘致やロケ支援、
またそれらの作品を活用したシティプロモーションなどを行う
岡山県フィルムコミッション協議会では、近年多くのロケ誘致を成功させており、
撮影を通じた観光振興や地域活性化に重要な役割を果たしている。

文／川西 由香理

ロケ誘致件数を拡大させてきた岡山県ＦＣ

岡山県フィルムコミッション協議会（以下、岡山県ＦＣ）は、地域活性化を目的にＦＣ事業が県の重点事業となった２０１８（平成30）年に設立された。現在は、公益社団法人岡山県観光連盟を事務局として県内全市町村や観光団体、地域ＦＣで構成されており、窓口を一本化することでそれらの団体と連携して素早い対応ができるのが特長だ。また、専任のコーディネーターを置くほか、ロケ支援金を順次創設してロケ誘致を後押ししてきた。県内各地で普段から撮影協力を呼びかけ、エキストラ人材バンクには５９００人以上（２０２３年９月現在）が登録するなど撮影への協力体制も整備している。

岡山県ＦＣではこうした強化策とともに、安定した気候や交通の利便性、ロケーションの豊富さ、住民や企業が協力的なことなどをアピールしてロケを誘致してきた。その効果は顕著に現れており、２００５年度から２０２２年度までで５００件近くのロケ実績があり、そのうち２０１８年度以降は、コロナ禍を含むにもかかわらず２００件以上に上る。

1 映画『劇場版 推しが武道館行ってくれたら死ぬ』で登場する表町商店街（上之町）のロケハン
2 同商店街での「七夕まつり」撮影時には地域住民がエキストラとして参加した
3 4 全編白石島で撮影された『リゾートバイト』は、地元の協力もありホラー映画ながら楽しくロケが進行した
5 地域住民の理解が得られるよう、ロケ受け入れに関する説明会は必要に応じて開催する

映画『８年越しの花嫁 奇跡の実話』『ういらぶ。』『とんび』をはじめ、２０２３（令和５）年にはオール白石島（笠岡市）ロケの映画『リゾートバイト』が公開され、映画『ミステリと言う勿れ』も記憶に新しい。

また、件数のみならず、新たなロケ地発掘や撮影を通じたまちおこしなどの取り組みが高く評価され、優れたＦＣ活動に送られるＪＦＣアウォード※1を３度も受賞し、さらに、２０２３年にはロケーションジャパン大賞グランプリに岡山県が輝いている。こうした実績の裏には、コーディネーターを務める妹尾真由子（せのお）さんの存在がある。

「できないと言わずにできることを一緒に考える」ことをモットーに、無理難題と思える問い合わせに対しても丁寧にヒアリングをし、きめ細かい配慮や提案力で対応に当たっている。

ロケ地検討段階の例として『リゾートバイト』の下見では、白石島での滞在が２時間と短い中、妹尾さんは地域の方と協力して監督とプロデューサーに見せたい場所を効率よく案内。島でのロケは機材運搬や宿泊施設確保など難易度が高いが、下見で監督が気に入ったことで白石島でのオールロケが決定したという。

撮影が決まってからも、宿泊やケータリングなど撮影隊の生活環境を整える以外に、多くの車両の駐車スペースの確保や公的な許可申請、地域住民との調整まで、ロケ支援は多岐にわたる。大きな道路の封鎖には路線バスとの時間調整なども伴う。妹尾さんはこれらの業務を専任で長年続けており、地域の情報やノウハウの蓄積、制作会社や地域の人々との信頼関係の積み重ねがあるのも強みだ。連携する行政の観光課では担当者が数年で変わることもあるため、同じ水準を維持できるよう気をつけて調整を行う。それらの経験を生かし困難なロケにも臆せず対応してきた。その結果、撮影環境に関して良い話も悪い話も広まりやすい業界の中で、「楽しく満足のいく撮影ができた」「難しい撮影も頼みやすい」と評判も上々でリピーターも多いという。

地域の協力が不可欠

岡山県ＦＣでは製作者が満足できる撮影環境を提供できるよう心掛けつつも、地域第一の姿勢を貫いている。

「ロケが地域に負担をかけるのも事実であり、できないことはハッキリと製作側に伝えて、約束事を守っていただくのも私の仕事」と妹尾さん。

前述の『リゾートバイト』はホラー映画であったために、白石島住民からはその後の影響を考えて受け入れを心配する声も上がったが、事前説明会で「入り口はホラーであっても、白石島の魅力をしっかり伝える」ことを約束。結果、住民も協力的で楽しく撮影できたため、キャストを含めた製作側からも白石島の良さが発信され、ファンに注目された。

こうした実績の積み重ねにより、自分の施設もロケに使ってほしいという申し出やエキストラ出演を心待ちにする人が増えるなど、「住民、企業が協力的なこと」もロケ誘致の武器となる好循環を生み出してきた。

一過性ではない岡山ファンの醸成を目指す

「ロケ誘致はあくまでも岡山の魅力を伝えるきっかけの一つで、地域活性化の通過点です。目標は作品を通して岡山を知った方に実際に現地に来てその魅力を感じていただき、ファンを増やすことです」と妹尾さん。撮影時から地域の魅力を発信するための手段を考えて手を尽くしている。

例えば、撮影隊に提供する炊き出しもその一つだ。地域側はプロモーションの場と認識して特産品を振る舞い、撮影隊と交流する。美咲町の卵かけご

※1 JFCアウォード…全国150のFCなどが加盟するNPO法人ジャパン・フィルムコミッション主催の表彰

人気マンガ『名探偵コナン』の作者・青山剛昌氏のふるさとである北栄町では、至る所でコナンに出会える。左側はコナン駅の駅前、右側はコナンの家 米花商店街「Conan's Kitchen」店内とその一角の撮影スポット

写真提供／北栄町（左）、北栄町商工会（右）

世界中で人気のコナンの聖地として まちの魅力を育む

鳥取県北栄町

鳥取県中部に位置する北栄町は、日本海に面した人口１万4000人ほどの小さな町だが、
国内外から年間10万人以上の観光客を集めている。その目当ては『名探偵コナン』だ。
北栄町では25年以上前からこの人気マンガを地域資源とし、
地域にもファンにも愛されるまちづくりを進めている。

文／倉恒 弘美

作者の出身地で展開するコナンによるまちづくり

北栄町はマンガ『名探偵コナン』（小学館「週刊少年サンデー」連載中）の作者、青山剛昌氏の出身地※であり、「名探偵コナンに会えるまち」として、多くの観光客が訪れる。コナン駅（ＪＲ由良駅）から、マンガミュージアム「青山剛昌ふるさと館」（以下、ふるさと館）までの約1・4㎞にわたる「コナン通り」には、キャラクターのブロンズ像やカラーオブジェ、石製モニュメントなどが並ぶ。休日ともなればふるさと館は多くの来館者であふれ、まち歩きを楽しみながらキャラクターと記念撮影をする観光客の姿を随所で見かける。

コナンを活用した観光振興は合併前の大栄町のときにスタートした。１９９７（平成９）年に地元商工会が地域ビジョンとして「コナンの里構想」を町に提言し、「第10回すいかながいも健康マラソン大会」のＴシャツにコナンのイラストを使用したことに始まる。１９９９（平成11）年にはまちの中心を流れる由良川に「コナン大橋」が架かり、欄干のブロンズ像やブロンズパネルがお披露

※ 旧大栄町由良宿出身

7

8

6

6 岡山県出身の重松清氏原作の映画『とんび』。高度経済成長に活気づく昭和のまちを舞台に、妻を亡くした父親ヤスがさまざまな困難を乗り越え男手一つで息子アキラを育てるストーリー。公開御礼会見は撮影地の商店街で開かれ、地元の人々が拍手で監督とキャストを迎えた

7 アキラの高校時代のシーンにエキストラとして参加した地元高校野球部員

8 橋の上でのシーンを水上から撮影。ボートは近所の住民に交渉して借りたもの

©2022「とんび」製作委員会

話題となった地域グルメ

ロケ地の炊き出しなどで提供される地域グルメは、キャストなどのSNSで紹介され注目される。映画『名もなき世界のエンドロール』では総社市で提供された「そうじゃ消防署カレー」と「そうじゃ小学校ライスカレー」が話題となった

写真提供／総社市

演者のファンがカレーを多数購入して大幅に売り上げが増加したという。こうした2次、3次につながる撮影以外のプロモーションも手掛けている。

また、作品の公開後に行う、聖地巡礼マップ作成やパネル展開催、ロケ地公開などのプロモーションには、観光連盟の強みを生かし、観光客が多角的に楽しめる情報や提案を盛り込んでいる。

「作品を通して岡山を知ってもらえても、実際に来たときに魅力を感じなければ一過性のもので終わります。例えば聖地巡礼マップではロケ地情報だけでなく、その地域の説明や地元グルメなども紹介し、周遊を促して新たな魅力が発見できるよう工夫しています」

さらに、撮影時に岡山を訪れたキャストの手形とサインを、備前焼の陶板に残す活動も始め、映画のまち「ハレウッド」※2として新たな観光資源の創出にも取り組む。

地域の魅力再発見と地元愛の醸成にもつながる

撮影誘致が地域にもたらすものは他にもあると妹尾さんは語る。

「撮影はある意味お祭りのようなもので、地元の方にもぜひ参加してもらいたい。生活する場所での撮影に参加することで、地域の魅力の再発見や地元愛の醸成につながればと思います」

そういった思いから、映画『とんび』では地域に呼びかけ、エキストラとして地元住民が２００人以上参加した。さらに、約1カ月かけて通りの美術装飾を行った浅口市金光町大谷地区では、変わりゆく姿を見て、そこに暮らす人々がまちの良さを再認識した。さらに、２０２２（令和４）年、岡山県ＦＣで捻出したプロモーション費で、まち並みをバックにした舞台挨拶を実現させた。キャストが撮影地を再訪した映画公開イベントは狙い通り大きなＰＲ効果を生み、公開前にはほとんど見かけなかった観光客が公開から5カ月で1万５０００人も訪れた。住民が観光客にうれしそうにまちについて語り、お隣同士で声をかけ合って地域コミュニティが生まれるなど、まちの活性化にもつながった。

「私もここまでまちが変わったことに驚きました」と妹尾さんは話し、影響力の大きさを実感したという。

「岡山ロケでは日本の原風景や古いまち並みをよく求められますが、空き家が増えている今、そういったまち並みを維持することは地域にとって簡単なことではありません。私たちの取り組みで撮影地となった地域の魅力が伝わってそのまちが活性化し、それがまた次につながればと思います」。今後も岡山県ＦＣでは地域の未来のためにロケ誘致活動を続ける。

第13回ロケーションジャパン大賞グランプリ受賞時。左から映画『とんび』の天馬少京プロデューサー、岡山県伊原木隆太知事。右の妹尾さんが手にしているのは『とんび』ロケで岡山を訪れた阿部寛さんの備前焼手形

岡山県フィルムコミッション協議会
公益社団法人岡山県観光連盟内
☎086-201-0245
https://www.okayama-kanko.jp/fc/

※2 ハレウッド…「晴れの国おかやま」の「晴れ（ハレ）」と映画の都「ハリウッド」を合わせた造語

写真提供／岡山県フィルムコミッション協議会

目。コナン通りの整備も進み、オブジェのほか、案内板や街路灯、コナンデザインのマンホールも設置された。そして２００５（平成17）年に隣町の北条町と合併して北栄町が誕生し、２００７（平成19）年にその観光拠点となるふるさと館が開館、県内有数の観光地へと成長していった。

ターニングポイントは「国際まんが博」

「ターニングポイントは、２０１２（平成24）年に鳥取県で開催された『国際まんが博』でした。翌年からコナン駅と呼ばれることとなるＪＲ由良駅の装飾やコナンの巨大迷路イベントが県の事業として行われ、ふるさと館を中心とした一体的なまちづくりが展開されました」と北栄町観光交流課の隅淳子さんは話す。

２０１７（平成29）年には、北栄町商工会がコナン通りに面する「出会いの広場」内に複合施設「コナンの家 米花商店街」をオープンさせ、作品をモチーフとしたオリジナル飲食メニューやグッズ購入も楽しめるようになった。

写真提供／＊1…北栄町、＊2…北栄町商工会、＊3…倉恒 弘美

まちづくりの開始当初から気をつけてきたのは版権元の許諾だ。北栄町におけるコナンに関する企画の情報共有やキャラクターの使用許可申請などについて定期的に監修協議を行い、版権元と相談しながら進めている。青山氏自身が地元北栄町の地域振興に協力的な姿勢であることもあり、理解は得やすいという。

「北栄町で扱うグッズや、モニュメント、パンフレットなどに描かれるキャラクターは全て原画を使用しています。これを使用できるのは世界で唯一、北栄町だけ。ここでしか見られないものであふれています」と隅さんは語る。

また、地元小学校では3年生の総合学習で町内のオブジェやマンホールを調べてコナンのまちづくりについて学んで発表する機会が設けられている。その他にも地域ボランティアによるコナン通りの清掃活動が月2回行われるなど、町民の理解と協力もあり、まちの観光資源が守られている。

シンボル的存在の「青山剛昌ふるさと館」

北栄町を訪れた人がまず目指すのはふるさと館だろう。元は「大栄歴史文化学習館」という町の歴史や農業に関する資料館だったが、コナン大橋が完成した１９９９年と、北栄町が誕生した２００５年に行ったコナン特別展が好評だったため、２００７年に展示内容を充実させて「青山剛昌ふるさと館」としてリニューアルオープンした。以来、町のシンボル的存在だ。

館内は、まずエントランスでキャラクターたちが出迎え、青山氏の生い立ちの紹介に始まる。その先にはこれまでの作品が並び、再現された仕事部屋、作品に登場する発明品やトリックの体感コーナーや、プロジェクションマッピングを活用した展示などがあり、子どもから大人まで青山剛昌ワールドを堪能できる。

「ふるさと館は、名探偵コナンなど青山作品の魅力や、青山先生自身の気さくでファンを大切にする人柄を知ってもらう施設です」と話すのは同館主事の内間凛さん。特別原画展やＧＷのコナン誕生日イベントなど職員たちが考えた毎月のさまざまな企画に多くの来館者が集まる。特に、２０１０（平成22）年から開催されている正月の「青山剛昌先生と話そうＤＡＹ」は、本人が登場する人気イベントだ。

「マンガだけでなくプライベートなことまでお話しくださり、先生に直接質問もできます。お忙しいはずなのに、ファンや故郷のことを本当に大事に思っていることが伝わるイベントです」と内間さん。

コナン人気の高まりや、取り組みの甲斐もあり、来館者数は勢いよく伸びている。２０１５年度に10万人を超え、２０１９年度には20万人を突破した。県外からの観光客が中心でコロナ禍は落ち込んだものの、２０２３年度は11月末の時点で約13万人が訪れ、開館以来の累計入館者数は１７３万人以上を数える。

中国、台湾、韓国などアジア圏のインバウンド客が多いのも特徴で、コロナ禍前は年間２万人近くが来館していた。海外向けのＰＲ活動は行っておらず、ＳＮＳや口コミで知る人が多いという。館内展示や公式サイトは英語・中国語・韓国語でも表記しており、まちの案内板や観光マップも多言語対応だ。現在インバウンド客は回復傾向にあり、米子空港とソウルを結ぶ定期便も２０２３（令和５）年10月に４年ぶりに運航を再開したことで、さらなる増加が期待される。

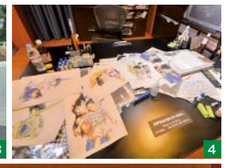
新施設開館で期待される今後

魅力あるコンテンツが人気のふるさと館だが、特にハード面での課題を抱えており、施設が手狭で貴重な原画などの展示・収蔵スペースが不足し、老朽化も進んでいる。

このため、北栄町観光協会や地域団体が町へ提言を行い、２０２７年の移転新築を目指している。新施設は米花商店街がある「出会いの広場」内に建設され、延べ床面積は３０００㎡と現在の３倍以上の広さとなり、バリアフリーにも対応する。これによりリピーターも含めた集客が見込め、町では「名探偵コナンに会えるまち」のシンボルとして充実させて、町民はもちろんのことファンや観光客に愛される施設として、開館から５年間で総来館者数１００万人突破を目指すという。

「開館に向け、宿泊施設や飲食店の不足が懸念されています。観光客が町に滞留できる環境を整備し、これを機に、地域と協力し滞在型観光の実現にも取り組んで、北栄町を丸ごと楽しんでもらえるようにしていきたいです」と隅さん。北栄町では、県と観光団体と協働・連携して国内外でプロモーション活動を行い、コナンと併せて、農産物・文化・歴史・文化財など北栄町が有する文化観光資源を活用・発信することでまち全体のにぎわいと活力につなげたい考えだ。

地域住民もファンも、今後迎える新たな展開に期待している。



3 青山剛昌ふるさと館の入り口前には阿笠博士の乗る黄色いビートルが停車
4 館内に再現された青山氏の仕事部屋
5 25の国や地域で出版されている『名探偵コナン』コミックス。多言語に訳されたページが並ぶ
写真提供／青山剛昌ふるさと館

町内の小学校で夏休み用に配布されたSDGsの教材。町では多くの配布物にコナンが登場する
写真提供／北栄町

北栄町観光交流課
観光戦略室
隅 淳子さん

青山剛昌ふるさと館
内間 凛さん

青山剛昌ふるさと館
https://www.gamf.jp/

©青山剛昌／小学館

ドラマ撮影が紡ぐ福澤克雄監督との縁
作品やロケ地巡りを通じ、島根の魅力を発信

島根県

2023（令和5）年7月から放送されたTBSドラマ『VIVANT（ヴィヴァン）』のロケ地になった島根県。原作・演出を手掛けた福澤克雄監督は、約20年前に撮影で訪れた際に島根県に魅了され、数々の作品をここで撮影してきた。放送後、ロケ地を巡るツアーが企画されるなど、島根県では作品をきっかけに新たな人の動きが生まれている。

文／城市 奈那

豊かな自然や文化が色濃く残る島根県

神話ゆかりの歴史的名所や希少な自然景観、懐かしさを感じられる風景が残る島根県は、数多くの作品の舞台となってきた。2017（平成29）年放送の産科医療ドラマ『コウノドリ2』では、日本有数の断崖である摩天崖（まてんがい）や赤尾スカイライン（西ノ島町）などで撮影が行われた。また、2021（令和3）年に公開されたアニメ映画『神在月（かみありづき）のこども』では、美保神社（松江市）や出雲大社、稲佐の浜（出雲市）などが登場し、それらの場所が映画の中でまるで写真のような精緻なタッチで描かれた。

同県では2018（平成30）年に、島根県と公益社団法人島根県観光連盟を窓口とし、県内のフィルムコミッションおよび広域観光組織などで構成する島根フィルムコミッションネットワーク会議（以下、島根FC）を設立。市町村や観光協会などとの連携を強化し、メディアからの問い合わせへの対応やロケ誘致、情報発信などを一元的に行えるように体制を整備した。

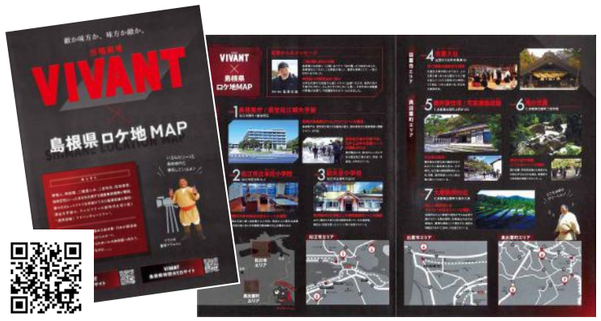
福澤克雄監督とのつながり

島根県に魅了され、多くのテレビドラマや映画を同県で撮影していることで知られているのが、株式会社TBSテレビの福澤克雄監督だ。2004（平成16）年放送のドラマ『砂の器』の制作時に島根県を訪れたところ、美しい景色や食のおいしさ、もてなしてくれる地元の人の温かさに惹かれたという。以来、映画『私は貝になりたい』（2008年）やドラマ『LEADERS リーダーズ』（2014年）など、度々撮影で訪れている。

2023年放送の堺雅人さん主演のドラマ『VIVANT』では、島根県庁や旧大谷小学校（松江市）、出雲大社、奥出雲町の櫻井家住宅、大原新田（おおばらしんでん）付近などで撮影が行われた。このドラマは、初回放送までストーリーや役柄を一切明かさない手法が取られたため、放送前のエキストラ募集はできず、島根FCの関係者のみで撮影協力を行った。

「県庁前の大手前通りでの撮影では、警察や警備会社、バス会社、タクシー会社などと調整して交通誘導しながら、一車線を占有して撮影が行われました」と島根県商工労働部観光振興課の佐藤ひかるさんは話す。

この県庁での撮影時に、島根FCからの提案で特別インタビューが実現。7月16日の初回放送の後、7月25日に県観光振興課の公式YouTubeチャンネルで公開された映像では、福澤監督、堺さん、阿部寛さんの3人が、県庁敷地内の広場で国宝・松江城を背景に、島根県の印象やロケ中に記憶に残ったこと、「ご縁の国しまね」に掛けてご縁を感じたエピソードなどについて語り合った。この動画の再生回数は60万回を超えており、この中で福澤監督は、「日本を代表する役者の皆さんに出ていただき、世界に向けて投げかけるドラマにしていきたい。そのためには、島根の映像が必要だった」と語っている。



TBSドラマ『VIVANT』×島根県 ロケ地MAP
松江市、出雲市、奥出雲町エリアごとに撮影された場所を紹介。WEB上の「しまね観光ナビ」内に設けられた『VIVANT』島根県特設サイトでは、各所を説明するとともに、撮影の様子を公開している
発行・製作／島根フィルムコミッションネットワーク事務局 ©TBS

映画『神在月のこども』×島根県 ロケ地MAP
美保神社や出雲大社、宍道湖など映画に登場する場所をシーンごとに紹介。ARアプリ「舞台めぐり」を使って現地でチェックインすると、作品の声優によるオリジナルボイスや壁紙がプレゼントされる ＊現在はサービスを終了
発行／島根フィルムコミッションネットワーク事務局
©2021 映画「神在月のこども」製作御縁会

ドラマ終了後、ロケ地巡りのツアーを催行

県内で撮影された全てのシーンが放送された後、島根FCでは、『VIVANT』のロケ地を紹介する特設サイトの公開とロケ地マップの配布など、島根の魅力を発信する取り組みを行った。主要駅や観光スポットなどで配布したマップは好評で、「島根に行くのでロケ地マップが欲しい」という問い合わせも多いという。

さらに、ドラマ終了後の10月末には、『VIVANT』の島根ロケ地を巡るツアーが大手旅行会社により企画・催行された。2泊3日のツアーでは、1日目は奥出雲町内のロケ地や奥出雲たたらと刀剣館等を訪問し、撮影スタッフらが宿泊した奥出雲町の玉峰山荘に宿泊。2日目は松江に移動し、ロケ地巡りをしながら市内を散策後、宍道湖クルーズ船に乗り、3日目は出雲大社周辺を観光するという行程だ。福澤監督や出演俳優の富栄（とみさか）ドラムさんが一部同行したり、夕食時にトークイベントを行うなど、ファンが喜ぶ充実した内容で、旅行代金は高額だったにもかかわらず、当日は大盛況であった。

「島根FCも、ツアーの相談に乗るなど現地の側から協力しました」と佐藤さんは話す。

このように作品と連動したイベントや観光施策が行える期間は限られているが、放送・上映から年月が経った後でもファンがロケ地を訪問できるよう、島根FCではホームページでロケ地マップを公開している。ロケ地を生かした地域の動きも少しずつ生まれており、ロケ地巡りをきっかけに周遊を促すような面的な展開が今後期待されている。

1

2

3

4

5

1 約140年の歴史を持つ木造校舎「旧大谷小学校」での撮影で振る舞われた出雲そば
2 奥出雲町の撮影では、地元商工会女性部が携わり地元料理でもてなした
3 島根県庁前での撮影時は、警察などと協力し交通誘導を行って撮影に臨んだ
4 『コウノドリ2』が撮影された西ノ島町の摩天崖
5 2023年10月29日、奥出雲町において糸原保町長を交え、福澤監督と俳優の富栄ドラムさんによるトークショー＆講演会が行われた

写真提供／
1・3 島根フィルムコミッションネットワーク事務局
2・5 奥出雲町
4 公益社団法人島根県観光連盟

島根県商工労働部観光振興課の佐藤ひかるさん

老舗豆腐店から承継した技術と魂で新食材の「TOFU MEAT」を開発し、世界市場を狙う

株式会社トーフミート　代表取締役
村上 英雄
（山口県宇部市）

profile

村上 英雄〈むらかみ・ひでお〉

1976年、広島県因島市（現・尾道市）生まれ。大学卒業後、自動車用品会社に就職。その後、宇部市の自動車販売会社を経て、2014年にシェアオフィスを経営する株式会社フェリーチェを創業。2016年に豆腐製造業の有限会社兼氏食品から事業を承継。2019年、「TOFU MEAT」を開発し、株式会社トーフミートに社名変更。2021年「食べるJAPAN 美味アワード全国大会」準グランプリ、2023年「にっぽんの宝物」世界大会 業界変革部門準グランプリ受賞。

文／村上 郁子　　写真撮影／渡辺 久徳

「面白そう」だから行動を起こす

健康志向や食の安全性、ＳＤＧｓへの関心が高まる中、国産大豆を使った豆腐を原料とする代替肉「TOFU MEAT（トーフ ミート）」が注目されている。開発したのは山口県宇部市の株式会社トーフミート。代表の村上英雄社長は、もともと食品製造とは無縁のシェアオフィス経営者だった。

「学生時代から、35歳までに何かで起業したいと考えてはいましたが、具体的なプランはありませんでした。人との出会いで次第に定まっていきました」と話す笑顔が、誰からも声をかけられやすい気さくな人柄を物語る。

村上社長は大学卒業後、自動車用品会社に就職し、中国地域を含むいくつかの店舗で新店舗立ち上げの店長を務めた。その後、宇部市の自動車販売会社に役員として転職。仕事に奮闘する中、知人から倉庫と駐車場付きの物件を薦められたのを機に、独立を決意した。

その建屋は、起業時から共同で事業を進めている、相棒の中路裕文（なかみち）さん（現・専務取締役）と2人で使うには広すぎたため、8ブースに仕切って貸し出すことを思いつき、２０１４（平成26）年に株式会社フェリーチェを創業してシェアオフィスの経営を始めた。当時の山口県ではシェアオフィスは珍しく、周囲からは反対されたが、始めてみるとブースはたちまち埋まり、キャンセル待ちまで発生したという。

「潜在需要を把握していたわけではなく、こうしたら面白そう、と常識にとらわれずに始めたら、成功したんです」

村上社長にとって、「面白そう」が常に行動を起こすキーワードだった。

老舗店の社長に魅せられ、豆腐製造を事業承継

起業から2年が過ぎたころ、山口県の職員から市内の老舗豆腐製造会社である有限会社兼氏食品の事業承継を打診された。全く異業種からの誘いを「地方でシェアオフィスを始めるような変わり者なら引き受けるかもしれない、と思われたのだろう」と、村上社長は軽く受け止めた。かつて県内に40～50店あった豆腐店は当時既に数店にまで激減していた。兼氏食品もまた、オーナーの兼氏（かねうじ）佐憲（すけのり）社長が高齢となり、培ってきた製法や機械を誰かに引き継ぎたいと考えていた。紹介を受け早速工場を訪ねると、兼氏社長は開口一番、「今から豆腐屋を始めるなんて、やめておけ」と言い放つ一方で「日本から豆腐がなくなることはないから、生き残れば勝ちだ」とも語った。最後に「よく考えてから返事をくれ」と言われた村上社長はその時点で「いや、もう決めました、やります」と即答した。「面白そう」と感じたからだ。

「儲かるかなどは一切考えず、昭和一桁生まれのこの人から、経営方針や生き方までも教わりたい、と直感したんです」

技術伝承の手応えと事業承継の難しさ

契約を結び、必要な機械と製造ノウハウを買い取ると、銀行からの借入金は底をつき、工場の新規建設は困難になった。親しくなった兼氏社長に甘え半分で打ち明けると「だったら自分でつくれ。教えるから」と発破（はっぱ）をかけられ、機械を運び込んだ倉庫を工場代わりに豆腐製造修業が始まった。兼氏社長は連日、手取り足取り指導してくれた。

人の話に耳を傾け、分からないことは素直に教わる。そんな村上社長には、誰もが気軽に話を持ち掛け、足りない部分を助けたくなってしまうのだろう。

「後から知ったのですが、兼氏食品の製法は遠心分離生搾り製法と呼ばれる全国的にも珍しく難しいものでした。それだけに出来上がった豆腐は驚くべきおいしさでした」

中路さんと2人で悪戦苦闘すること数カ月、やっと合格点がもらえた。国産大豆を原料に、にがり以外の添加物や消泡剤は使わないという兼氏食品のこだわりを受け継いだ豆腐の完成だった。早速販売に乗り出したが、新参の豆腐製造者はどこにも相手にされなかった。

「取引先までは受け継いでいないので当然です。全く売れませんでした」

ノウハウや設備だけを受け継いだ事業承継ならではの苦労だった。

世界中のあらゆる文化と生活に対応できる新食材の開発

活路を見いだすべくイベント出展を重ねるうちに、転機が訪れた。博多で開催された九州ヴィーガンフェスで、実行委員長の村畑啓子氏が独自製法の豆腐に注目し「これを使ってヴィーガン食品をつくってみては？」と提案してくれたのだ。

ヴィーガンとは、肉や魚などの動物性たんぱく質を取らないライフスタイルを志向する人を意味するが、ヴィーガン食品を食べるのは彼らだけにとどまらない。添加物を極力使わない同社の豆腐であれば、子どもやお年寄り、病気で肉を控えている人など多様な人々が食べられる健康的な新食材が生まれる可能性がある。さらに、コンソメやみりんなど動物性やアルコール性の物質を使わない食材なら、宗教上の理由で食品の制限がある人にとっての新しいたんぱく源にもなり得る。村上社長は、新たな顧客を開拓できる可能性を感じ、村畑氏の助言を受けながら新食材の開発に取

1 兼氏社長（写真中央）から豆腐製造について学んでいたときの村上社長（同左）と中路専務（同右）
2 TOFU MEATは冷凍のまま使用でき湯戻しも不要。味付き「オリジナル」、甘さ控えめ「ノンシュガー」、豆腐の味そのものの「プレーン」の3タイプがある
3 ひき肉の代わりにさまざまな料理に利用できる
4 大豆臭が少なくお菓子づくりにも最適（写真はタルト生地に使用）
写真提供／株式会社トーフミート

り組んだ。

そうして生まれたのが、豆腐を原料としながらひき肉のような形状と食感を持つ「TOFU MEAT」（以下、トーフミート）だ。近年、温室効果ガス排出抑制の観点から、肉に代わる食材として「大豆ミート」が注目されているが、従来の大豆ミートには、独特の大豆臭を軽減するための香料や調味料が使われていることが多かった。

「トーフミートは、豆腐からつくるため大豆臭が少ないのが特徴です。山口県産業技術センターの調査で、臭気成分・n-ヘキサナールが既存の大豆製代替肉より95％低減されていることが明らかになりました」

大豆臭が少ないため、香料や調味料が不要で、スイーツの食材としての利用も期待できる。また、大豆ミートは湯戻しなど下処理のわずらわしさが難点だったが、トーフミートの開発にあたっては、湯戻し不要で冷凍庫から出してそのまま使えるものを目指した。冷凍によって品質が変化しないよう豆腐の水分量を試行錯誤し、輸出にも適した長期冷凍保存が可能な商品を完成させた。

完成直後の2019（令和元）年12月、地域に隠された宝物を発掘する「にっぽんの宝物」山口県大会にトーフミートを出品してグランプリを獲得、翌月の全国大会では準グランプリとなり、シンガポールのホテルのシェフなどとコラボレーションする世界大会への進出を決めた。ところがそのタイミングでコロナ禍に入り、身動きが取れなくなった。

「何かしなくちゃ」と思った村上社長は、畑を借りて大豆の栽培を始めたが、農業初体験で収穫量も少なく、失敗に終わってしまったという。失敗はしたが悔いはなく、やはり「面白かった」のだという。

「先のことは分からないので、計画よりも直感を大事に、発生する事態にその都度できることを考えて対処していきたい」と話す。

世界市場をターゲットに日常的な食材を目指す

コロナ禍により、3年遅れの2023（令和5）年8月にシンガポールで開催された「にっぽんの宝物」世界大会では、トーフミートを使ったギリシャ料理「ムサカ」などを提案し、業界変革部門で準グランプリに輝いた。以降、海外からの商談も順調に続き、増産を見込んで自社製造から委託製造へ移行する計画を進めている。

「ヴィーガン、ハラル※1など食への意識は地方よりも大都市圏、さらに海外の方が高く、フレキシタリアン※2も増えています。インバウンドの復活後、トーフミートの需要は増えると期待しています」

さらに、缶詰やレトルトに加工して防災食のほか、宇宙食への展開も考えている。

世界市場を視野に入れる一方で、地元のカフェ向けにトーフミートを使ったメニューを開発・提供するなど、地域との連携も怠らない。将来的には耕作放棄地を利用した大豆栽培による地域貢献も考えている。こうした数々の構想の根底には、現在も「とうふの学校」を立ち上げて豆腐やおからの魅力を伝え、食育に尽力する兼氏社長への敬愛の念もあるようだ。

「いずれはどの店にも常に陳列されている商品にしたい。全国、そして全世界にトーフミートを広めるのが目標です」

村上社長の「面白そう」から生まれる挑戦は、食の未来を見据えながら、壮大に続く。

writer
村上 郁子（むらかみ・いくこ）
山口県生まれ。フリーライター。大学卒業後、大学研究室勤務を経て、各種雑誌や自治体・企業の広報・情報誌、記念出版物などの取材・執筆・編集に携わる。

5

6

7

5 2023年8月、「にっぽんの宝物」世界大会 業界変革部門で準グランプリを獲得
6 地元宇部市の女子フットサルチーム「ミネルバ宇部」がタニタカフェとコラボレーションして運営するBOSSTY CAFEではTOFU MEATを使ったメニューが提供されている
7 2022年6月、MUJI新宿での試食販売イベントで関東初上陸を果たす

写真提供／株式会社トーフミート

株式会社トーフミート
山口県宇部市港町２丁目1-35
☎0836-39-7235
https://tofu-meat.com/

※1 ハラル…イスラム教で「許されたもの」を指す。禁じられた食べ物に豚肉やアルコールなどがある
※2 フレキシタリアン…植物性食品を中心としながらも時には肉や魚も食べる食生活の人を指す

人命を守る最強の樹脂窓を開発
国内外の建機・自動車メーカー等で採用

株式会社レニアス《広島県三原市》

文／入江 太日利　写真撮影／大野 方裕

画期的な樹脂窓やアルミサッシで市場を開拓

株式会社レニアスは、建設機械に使われるポリカーボネート（PC）樹脂製の窓の国内シェア9割を誇るトップメーカーだ。特殊なコーティングを施した同社のPC樹脂窓は、ガラスと同等の透明度ながら、重さは半分で、衝撃に対する強さは約250倍にも上る。建機をはじめ、農機やバス、高速鉄道、警備盾など多方面で採用されており、三原工場（広島県三原市）に世界最大級のPC樹脂一貫生産ラインを完備し、他社には生産できない大型の窓や、特殊なデザイン窓にも対応している。

同様に主力商品となっているアルミサッシ製品は、大手バスメーカーの窓枠などに使われており、バス会社ごとに異なるサイズや仕様に対応しているのが特長だ。バスメーカーから提供された、窓を設けていない状態の車体の設計データを基に同社で窓部分をデザインし、設計して強度計算した上で、小山工場（栃木県小山市）の自動化生産ラインで製造して供給する。2015（平成27）年に同工場が開設されて生産体制が確立するまで、バスメーカーは窓とフレーム、ガラスをそれぞれ別のメーカーから調達し、組み合わせて製造していた。そうすると、水漏れ防止や開閉操作といった品質を最終製造者であるバスメーカーが確保しなければならず、作業やコストの負担が大きかったという。その課題を同社がワンストップで解決して市場を切り拓いた。

経営理念は「小さな一流企業をめざす」。企業規模の拡大よりも、質の充実を図り、真に優れた製品を生み出す集団であると自負する。製品がその証左であるとともに、経済産業省の「ものづくり日本大賞」中国経済産業局長賞や、中小企業庁の「はばたく中小企業・小規模事業者300社」に選定されたほか、経済誌「Forbes JAPAN」のグローバルニッチ賞など、受賞歴も枚挙にいとまがない。

チェーンソーの刃から人命を守る窓を創り出す

同社の歴史は1976（昭和51）年、田植機やコンバインなど農機用の部品を生産する西日本ガスケット株式会社の設立に始まる。1988（昭和63）年にPC樹脂の加工工場としての稼働を始め、翌年にはバブル経済で活況を呈していた建機業界に参入し、キャビン用窓枠の生産に乗り出した。飛躍のきっかけとなったのが、2005（平成17）年に三原工場に整備したPC樹脂製品の一貫生産体制だ。シルク印刷、熱プレス成形、コーティング、トリミング加工など、それまで別々の会社に外注していた工程を内製化し、ワンストップで供給できる体制を整えた。製造業の生産管理で重要な3要素といわれるQCD［Quality（品質）、Cost（費

バスの後面窓に使われている同社のPC樹脂製品RENCRAFT®。ガラスと同じ形状で重量が半分以下、さらに強度等耐久性に優れている
写真提供／株式会社レニアス

用）、Delivery（納期）」を高め、業績を伸ばしていった。

その後、順調に成長軌道を描いていたが、２００８（平成20）年のリーマンショックで売り上げが減少した。当時は海外への生産移管や現地調達などが求められていたが、それは「安さ」を競うビジネスに巻き込まれることを意味する。加えて、当時は国内の建機分野が売り上げの９割以上を占めており、販路の一極集中というリスクのほか、シェア９割で国内市場が飽和状態にあったことから、新たな市場の開拓に向け、海外への挑戦を決断した。

しかし、海外挑戦はグローバル人材の不足などから苦戦が続いた。そんな折、フィンランドで森林伐採の作業中に、折れたチェーンソーの刃が運転席の窓を貫通して操縦者が死亡したという報道に接する。調べてみると、同様の死亡事故が多発していることが分かった。

切れたチェーンソーの刃は、音速の２倍ものスピードで飛ぶことがあり、当時の同社の製品では防ぎきれなかった。そこから「人命を守る最強の樹脂窓をつくる」というミッションを掲げて、より強靭な製品を開発する挑戦が始まった。

立ちはだかったのは、厚みと透明度と高強度を確保しながら、サイズの大きなＰＣ樹脂窓を製造するという三重苦ともいえる難題だ。さらに当時、建機樹脂窓の海外市場は世界的な石油化学会社の独占状態だった。参入してシェアを獲得するには、革新的な製品が必要不可欠だった。

そこで同社は、当時の年間売り上げの約２倍に当たる50億円を投じ、世界最大の射出成形機の開発に踏み切った。３年半の歳月を費やし、２０１４（平成26）年に高さ５ｍ、全長30ｍ、型締力（かたじめりょく）※1４０００トンの射出成形機２機が完成。併せて、表面を傷や汚れから守るコーティング技術の結晶である超大型スーパーハードコート設備も導入した。これにより、２０００㎜×１５００㎜サイズで、厚さ10㎜超の大型窓が生産できる上、重量が強化ガラスの半分で、耐摩耗性や耐候性に優れ、透視ひずみのほとんどないＰＣ樹脂窓が誕生した。それが、最高品質の「RENCRAFT（レンクラフト）」だ。発売後、建機や農機の世界的メーカーに採用されるなど、各国で高く評価され、同社の海外売り上げを全体の30％にまで押し上げている。

電気自動車のフロントクォーター窓に使われている同社の製品。欧州の自動車用安全ガラスの製品認証「Eマーク」をはじめ、各国の安全ガラス認証を取得している＊

高い水密性能を必要とするバスや建機などに使われている同社のアルミサッシ製品＊

赤外線カット体感器。ヒーターを挟んで左側はガラス、右側は赤外線を遮る同社のPC板。手をかざすと、普通のガラスの方が５～10度熱く感じる

レニアスのポリカーボネート加工の流れ

射出圧縮成形
射出成形機の容器の中に、粒状のポリカーボネート（PC）素材を入れ、シリンダーで熱して柔らかくなったPC材を金型の中に注入し、冷却固化して製品を形成する。

粒状の樹脂原料＊

シルク印刷
スクリーンメッシュの版の上にインクを載せ、穴からインクを押し出して印刷する

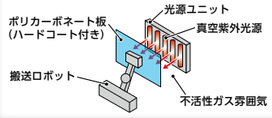
熱プレス成形
PC板を炉で加熱軟化させ、凸凹の型でプレスする

コーティング
傷がつきやすいPC材に、独自に開発したコーティングを施すことで、表面が硬くなり耐久性が飛躍的に向上する

＊

トリミング
不要な部分をカットし目的の形状に整える

スーパーハードコート
特殊な光を照射し、強化ガラスに匹敵する性能の超硬質膜を表面に生成する。赤外線を大幅にカットする性能も付加される



＊写真提供／株式会社レニアス

※1 型締力…金型を高圧で締めつける力

業務改善の提案制度やDXで生産性を向上

こうした技術革新を下支えすべく、イノベーションに向けた研究開発にも力を注いでいる。分析や試験、試作のための設備機器を完備し、大学や研究機関と連携。工学や農学、理学などの博士号を持つ４人の社員を中心にＰＣ樹脂加工の技術開発を積極的に進めている。さらに、人材は企業価値の源泉という考えの下、社内外の研修はもとより、独自の自己啓発支援や、人事担当者との目標設定といったキャリアアップ支援などを充実させており、２０２３（令和５）年に、若者が働きやすい職場づくりに取り組む中小企業を厚生労働大臣が認定する「ユースエール認定企業」となった。

働き方改革にも余念がない。社員が業務改善のアイデアを提案する「創意工夫提案制度」を設け、２０１２（平成24）年ごろから業務の効率化に取り組んできた。審査を経て実行に至った提案には報奨金も支給される。提案数は、多い年には４００件を超え、総務企画部人事課長の畑本亮二さんは「生産性の向上に大きく貢献している」と胸を張る。

さらに、煩雑な工程計画の自動化システムや、生産管理全体を最適化する需要予測など、ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）も加速させている。週休３日制の導入と社員の平均年収１０００万円以上の実現を目指しており、「生産性のさらなる向上に加え、働きがいを高め、従業員の満足度の向上にもつなげたい」と畑本さんたちは意欲をみせる。

1 工学、農学などの博士号を持つ社員も多く在籍する研究開発部門。他企業や大学との連携により、先駆的な製品を生み出してきた

2 工場での新入社員研修。若者が働きやすい職場づくりに取り組む「ユースエール認定企業」に認定されている

3 総務企画部人事課長の畑本亮二さん

写真提供／１・２株式会社レニアス

売り上げの急伸と脱炭素実現への挑戦

今後は、加工技術を深化させて業務を拡大し、２０２２年度に71億円だった売り上げは、創立50周年を前に２０２５年度には１００億円となる見込みだ。併せて、脱炭素への取り組みも進めている。小山工場はすでに使用電力の全てをCO_2フリー電気（※2）で賄っている。２００９（平成21）年に太陽光発電システムを一部取り入れた三原工場は、再生可能エネルギー比率のさらなる向上を目指して２０２４年にシステムを拡充する。生産効率の向上にも取り組み、CO_2排出量を２０３５年までに２０２２年比で46％削減する目標を掲げる。

同社は２０２０（令和２）年、地域経済を発展させるための中心的な役割を担う、経済産業省の「地域未来牽引企業」に認定された。本社のある三原市は高齢化率、人口減少率共に全国平均を上回っており、都市機能の減退が危惧される。同社では、将来の担い手となる地元の小学生を毎年招いて工場見学を実施。子どもたちは世界最大級の設備で製品が出来上がっていく様子を、胸を躍らせながら見るという。畑本さんは、「地域にレニアスというチャレンジングな企業があることを分かりやすく伝え、地元に根付かせたい」と先を見据える。さらに、技術開発や市場拡大だけでなく、脱炭素やＥＳ（従業員満足度）向上などにも果敢に挑み、「地域貢献につなげていく」と前を向く。企業や社員の成長と幸福を追求する同社のより一層の発展が、地域活性化の起爆剤としても期待される。

writer
入江 太日利（いりえ・たかとし）
１９７０年福岡県生まれ。大学卒業後、業界新聞、経済誌などを経てフリーライターに。取材記事を幅広く執筆するとともに、写真撮影なども手掛けている。

株式会社レニアス
広島県三原市沼田西町小原200-76
☎0848-86-1137
https://www.renias.co.jp/

※2 CO_2フリー電気…発電時にCO_2を排出しない電気のこと

夢紡人 ――ゆめつむぎびと―― 105

社会問題と向き合う「コノヒトカン」で心豊かな未来を目指す

一般社団法人コノヒトカン　代表理事
三好 千尋《岡山県倉敷市》

食品ロスを利用した缶詰「コノヒトカン」を地元企業などの支援でつくり、こども食堂や児童養護施設へ届ける活動を行う三好千尋さん。たくさんの想いが詰まった「世界一あったかい缶詰」で、地域の子どもたちを笑顔にするだけでなく、学びもサポートしている。

文／岡本 康史
写真撮影／佐々木 敏行

profile

三好 千尋
〈みよし・ちひろ〉

長野県上田市出身。東京の企業に就職後、結婚を機に岡山へ移住。育児に追われながらも人とつながるべく、夢であったネイルサロンを開業。フードロス問題、貧困問題解決のために2020年にコノヒトカンプロジェクトを立ち上げ、2022年に一般社団法人コノヒトカンを設立。3児の母。

コロナ禍で生まれたアイデアとコンセプト

岡山県倉敷市の中心部、倉敷美観地区から程近い笹沖地域の一角に三好千尋さんが運営するネイルサロンはある。ここを拠点として三好さんはコノヒトカンプロジェクトを立ち上げ、フードロス問題や貧困問題解決のために日々奮闘している。

きっかけは2020（令和2）年4月、コロナ禍で打撃を受けた飲食店16店舗に声をかけてネイルサロン前の駐車場で行った弁当販売だった。そのとき売れ残った弁当を見て、まだ食べられる食材や余った料理が廃棄されるフードロス問題について考えるようになった。

翌月、早速プロジェクトを発足。当初、三好さんは食品ロスを原料とした「岡山県の缶詰」をつくり、防災に役立てようと考えた。

ホテルや飲食業界に持ち掛け、200件以上連絡を取り続けるうちに、ようやく提案を受け入れてくれる人たちに出会えた。岡山県飲食業活性化団体である六式会会長の藤田弘記（ひろき）さんと、結婚式場「THE MAGRITTE」料理長の佐藤竜吾さんである。

三好さんは最初、6種類の缶詰を開発するつもりだった。しかし、コンセプトが曖昧で売り方も分からず、プロジェクトは一度、解散の危機に陥った。三好さんは「もう諦めたい、やめて逃げたい」と思ったという。そんなときに救ってくれたのは、共に開発を進めた藤田さんの言葉だった。

「コロナ禍で、レストランでお客さまに料理を提供できない苦しい状況の中、このプロジェクトの提案は『光』が差したようにありがたかった。今度は自分たちが助けるから、みんなで最後までやろう」

三好さんはこの言葉で「コロナ禍だからこそ困っている人たちみんなが元気になるプロジェクトにしたい」と考え、缶詰の活用方法とコンセプトを一から練り直した。所得が減少するなどコロナの影響を強く受けている貧困家庭の深刻さ、自粛や登校規制で地域から孤立し「心の貧困」を抱える子どもたちが多くいることなどを踏まえ、この缶詰で「フードロス」と「貧困」という、二つの問題を解決できないかと考えた。そうして、困っている人たちへ向け、協力してくれるたくさんの人たちの想いの詰まった「世界一あったかい缶詰」を届けたい、というコンセプトが定まった。「コノヒトカン」というネーミングは、「このひと缶」「この人感」「この日と缶」などさまざまな解釈ができることから、そこに込められたたくさんの想いを表現した。

子どもの食べる姿を想像して食材加工を工夫

「コノヒトカン」には「サカナカン」「ニクカン」の2種類があり、共に食材は、ホテルや市場などさまざまな場所を回って調達した。調理済みの余ったものではなく、未加工でまだ食べられるのに廃棄されてしまう食材が対象だ。

この食材でシェフたちはただおいしい缶詰をつくるのではなく「子どもたちはどんなシーンで食べ、食べたときにどんな顔をするのか」と考えながら開発したという。例えばサカナカンの場合は、子どもの喜ぶ味にするだけでなく、魚嫌いな子どもが食べる姿を具体的に想像して食べやすく工夫した。カレー粉をまぶし一度素揚げすることで魚の臭みを抑えて最大限にうま味を引き出し、缶詰の製造工程である加熱加圧殺菌によって骨まで軟らかくしている。これにより子どもたちに必要なカルシウムも多く摂取できる。

缶詰1缶の量は約160gで、炊き上がったご飯2合に混ぜ合わせて食べると3～4人分の食事となり、分け合える点がポイントだ。「1人で食べるよりみんなで食べると、さらにおいしく感じますよね」と三好さん。

他にもさまざまな料理に応用でき、

サカナカンをプロデュースした六式会会長の藤田弘記さん（手前左側）と試食会を行う三好さん（右側）

ニクカンのできるまで

調理段階で不要となるスジや脂などの食材を回収

火にかけ、余分な脂分を落とし牛肉のうま味を凝縮。写真はニクカンをプロデュースしたTHE MAGRITTE料理長の佐藤竜吾さん

トマトピューレでじっくり煮込んで完成

2合のご飯と混ぜれば簡単ミートライスができる

ニクカン、サカナカンを使った料理の一例

写真提供／一般社団法人コノヒトカン

例えばスプーン1杯のニクカンを容器に移してお湯を注ぐだけでミネストローネが完成する。肉感もしっかりあって肉の脂とトマト味が口の中に広がり、体がとても温まるという。

三好さんは企業からの支援を募ってつくったコノヒトカンを年に2回、こどもの日とクリスマスに児童養護施設やこども食堂へ無償配布している。この日を選んだ理由は、親が忙しい家庭では記念日を祝うことが少なくなるからだ。こどもの日とクリスマスは子どもたちにとって特別な日と考え、「世界一あったかいコノヒトカンが届いた日を思い出にしてほしい」と話す。

地域を担う子どもたちの夢や目標を全力で応援

三好さんの活動は、無償配布だけでは終わらず、児童養護施設の子どもたちによるレシピコンテストも行っている。また、地域の学校でSDGsの授業を行っているほか、高校生社会課題解決アイデアコンテスト「1000缶プロジェクト」にも取り組んでいる。

このプロジェクトは子どもたちに「自分たちにも誰かのために何かができるのではないか」と考え、行動を起こしてほしいと、2022（令和4）年に始めた大会で、上位チームは受賞後、発表したアイデアを自分たちの手で実行に移すというものだ。2023（令和5）年の第2回大会では、参加した県内12校・55チームの高校生らが、コノヒトカンを使って社会課題を解決する企画を発表した。

第2回大会で三好さんの印象に残ったのは、倉敷市内の夜間高校の生徒たちによる「コノヒトカンを不登校支援に使いたい」というプレゼンだ。現在不登校となっている生徒2名を含むクラス全員で、自分たちだからこそできる支援を考えてプレゼン資料をつくり、コンテスト当日にはその2人も参加して堂々と発表をすることができたという。そして見事入賞し、その後、発表したアイデアである「缶詰と不要品の交換」や「不登校の子どもたちと生徒が対面して会話を交わす」ことを実現させた。

こうした活動が評価され、2022年には「第6回中国地域女性ビジネスプランコンテストSOERU」で優秀賞を、「岡山イノベーションコンテスト2022」でサンマルク賞を受賞した。

コノヒトカンの今後の展開について三好さんは「継続こそが大切で、きちんとビジネス化させたい」と話す。ビジネス化は自分のためではなく、ソーシャルビジネスとして構築しコノヒトカンに関わる人たちの仕事を創り出し、雇用を生むためだ。

「缶詰によるいろいろな展開を計画していますが、缶詰だけに特化するわけではなく、世の中の状況をみながらどうやって役立てるかを考えていきたい」と柔軟な姿勢を持ちながら、「一緒にこの人と働きたい、この会社と関わっていたいと思われるような会社をつくりたい」と将来に向けた構想を抱いている。

コロナ禍で着想したアイデアの缶詰「コノヒトカン」は、いろいろな人が関わり合うプロジェクトへと発展し、地域を担う子どもたちの学びにもつながっている。三好さんは世の中と周りの人を幸せにすべく、温かい人の輪をこれからも広げていく。

1

2

3

4

5

1 裏側に支援企業からのメッセージが入ったコノヒトカン
2 クリスマスに無償配布支援を行った「水島こども食堂ミソラ♪」
3 SDGs授業の一環としてコノヒトカンを教材に子どもたちへフードロス問題などを伝える三好さん
4 5 2023年7月に開催された高校生社会課題解決アイデアコンテスト「第2回コノヒトカン1000缶プロジェクト」の参加者たち
写真提供／一般社団法人コノヒトカン

writer
岡本 康史（おかもと・やすし）
岡山県生まれ。ライター／編集者。一般社団法人はれとここにて副代表理事を務め、運営する地域コミュニティWebメディア「倉敷とことこ」「備後とことこ」の編集長も兼務。年に一度ライター塾を開催し「市民ライター」を育てる活動も行う。

一般社団法人コノヒトカン
岡山県倉敷市笹沖1240-3
https://www.konohitokan.com/

《広島県竹原市》

小笹屋竹鶴 生酛純米原酒

竹鶴酒造株式会社
広島県竹原市本町3丁目10-29
☎0846-22-2021
https://www.taketsuru-shuzou.co.jp/

料理協力：NIPPONIA HOTEL 竹原 製塩町
広島県竹原市本町1丁目4-16

魚飯

瀬戸内海に面する広島県竹原市は、中世は大名・小早川家の港町として、江戸時代にはその地理的特性を生かし製塩業で栄えた。また、近代は上質な酒造りを目指し「灘以西・第一の酒郷」とも呼ばれ酒造業も発展したまちである。

竹鶴酒造は、その栄華をしのばせる「たけはら町並み保存地区」の一角で古くから「小笹屋」として製塩業を営み、1733（享保18）年からは酒造業も手掛けてきた。ニッカウヰスキーの創業者・竹鶴政孝氏の生家としても有名だ。

「重視したのは、この地ならではの食をおいしくするための酒造りです」と14代目社長の竹鶴敏夫さん。干満差が大きい竹原近海で育つ魚介類は身が締まり味わい深い。その味を最大限に引き出す酒造りに挑んできた。酒蔵の地下から湧き出る水には海水が含まれ、その成分は日本酒のうま味を引き出す。まさに風土に根差した酒造りといえよう。そしてたどり着いたのが、日本酒の伝統ともいうべき「生酛造り」と「純米酒」だ。2004（平成16）年、自然の微生物の働きを活用して乳酸菌を育てる江戸時代の製法、生酛造りを広島県で初めて復活させた。今なお昔ながらの木桶仕込みという徹底ぶりだ。

また、2016（平成28）年には醸造アルコール無添加で米からのうま味を生かす純米酒に全量を統一した。これも県内初のことであった。

「自然の力に委ねた酒造りは高度な技術と衛生管理などの労力が必要ですが、重層的で豊かな味幅のある酒ができます」と竹鶴社長は話す。

今回紹介する魚飯は「酒を通して竹原を伝えたい」という社長の思いが感じられる逸品だ。魚飯は塩田主がハレの日に振る舞った料理で、家々で継承されてきた。製塩業の衰退により今では竹鶴家にのみ伝わる幻の郷土料理だが、竹鶴酒造の程近くにある「NIPPONIA HOTEL 竹原 製塩町」では、2021（令和3）年よりそのレシピを再現して提供している。コチやアナゴなど地元の海の幸や錦糸卵をのせた魚飯に、熱々の出汁をかけていただく。下ごしらえに時間がかかり、おもてなしの心が込められた料理だ。その食を竹原の恵み豊かな「小笹屋竹鶴 生酛 純米原酒」と共に味わう。あっさりとしながらも濃厚な出汁のコクと焼き魚の香ばしさが口の中に広がり、酒の奥行きある濃醇なうま味と香りが交わる。竹原の風土と塩文化、そして歴史が醸す深い味わいを心ゆくまで堪能したい。

文／川西 由香理　写真撮影／木下 省吾

因幡の麒麟獅子舞

（鳥取市）

中国に伝わる霊獣「麒麟」をモチーフにした因幡・但馬地域の「麒麟獅子舞」。徳川家康を祀る因幡東照宮の神幸行列に始まる伝統芸能が３００年を超えて今に伝わる。

1

徳川家康に端を発する伝統芸能

鎮守の森に幟旗が上がり、村々から鐘と太鼓の音が聞こえてくる。その音に合わせて金色の獅子頭に赤い蚊帳をまとった獅子が舞う。鳥取県東部を象徴する春の風景である。

この地域で獅子舞といえば「麒麟獅子舞」のことを指す。因幡（鳥取県東部）と但馬（兵庫県北西部）に江戸時代から伝わる伝統芸能で、国の重要無形民俗文化財だ。

麒麟獅子舞は、全国的にみられる神楽獅子舞とはいくつかの点で異なる。まず、その名の通り獅子頭は中国に伝わる霊獣「麒麟」をかたどる。麒麟は紀元前から中国に伝わる霊獣で、体は鹿に似て、頭に一本の角があり、体毛は五色に輝き、平和と繁栄のシンボルとされる。天下統一を成し遂げた徳川家康と重ね合わせ、曽孫にあたる鳥取藩初代藩主・池田光仲が家康の分霊を祀って因幡東照宮（現・鳥取東照宮）を創建した2年後、１６５０（慶安3）年の神幸行列に麒麟獅子が初めて登場したとされる。

次に、舞と囃子は、にぎやかでテンポの速い神楽獅子を「動の獅子」とするなら、能を思わせる幽玄な調べの中ゆったりと舞う麒麟獅子は「静の獅子」であり、対照的だ。さらに先導役が、やはり中国に伝わる架空の動物「猩々」である点も異なる。こうした地域固有の特色が評価され、１９５９（昭和34）年、県の文化財に指定された。

因幡地域の200以上の神社に伝播

家康にゆかりがあり、いわば殿様のものだった麒麟獅子舞が、正徳年間（１７１１～１７１６年）に因幡東照宮から因幡地域のいくつかの神社に伝わり、町民にも親しまれるようになった。明治時代にはさらに増え、昭和の中頃には、２００以上の神社が受け継いだとされる。

現在獅子が残り、かつ活動が続くのは１４０社ほど。その中でも、最も早く受け継いだのが因幡国一の宮である宇倍神社で、「全くそのままの形式で受け継いでいる」という郷土史家・故松本儀範氏の説もある。また、鳥取東照宮の獅子舞が１９３５（昭和10）年ごろを最後に途絶えたため、現存する、最もオリジナルに近い「権現流※麒麟獅子舞」といえる。

口伝により300年受け継がれる

宇倍神社の麒麟獅子舞は、３００年以上の間、口伝により氏子集落に受け継がれてきた。県の文化財指定をきっかけに団体化し、現在の会長は山本晃宏さんが務める。

「子どもの頃から春になると村じゅうに太鼓が鳴り響いて、獅子が来たら隠れていた。まさか自分がそれをするとは思わなかった」と笑う。

山本会長は高校生の時に獅子頭を担当する「頭役」を務め、麒麟獅子舞に携わってかれこれ30年になる。祖父、父も獅子を担当し、幼い頃からその姿を見て育った。しかし、「前の世代がしていたことを当たり前の流れで、ただ真似しただけ」と、気負いはない。

そして、次の世代へ

現在、保存会のメンバーは8人。舞は「頭役」と、尾を担当する「後役」に「猩々」を加えた3人の舞い手と、これに「太鼓」「鐘」「笛」の3人の囃子方の合計6人で執り行う。これを春の例祭のほか、伝統芸能イベントへの出演などで年2回ほど披露するが、人数はギリギリの状態だ。10年前には5人にまで減る断絶の危機もあった。

そうした中、２０２１（令和3）年に氏子を中心とした有志による存続会議が立ち上がり、その動きが地域へと波及した。翌年、氏子集落のスーパーの協力でその敷地が大祭の御旅所（中継地点）となり、さらに手を挙げた高校生3人がそこで舞を披露。そして、２０２３（令和5）年には、舞い手と囃子方の6人全員が高校生となり、すでに来年の参加希望者もいる。

山本会長の息子さんも、5年後には高校生になる。

「もし息子も獅子をやってくれたら、私が知っている限りで祖父から4代続くことになる」

若者たちの手によって、次の世代へのバトンが受け継がれつつある。

例大祭前日（毎年4月20日）の宵宮における奉納舞
写真提供／宇倍神社麒麟獅子舞保存会

5

3

2

4

7

6

1 因幡に国府が置かれた時代に最も崇敬された一の宮である宇倍神社の例大祭（毎年4月21日）の朝、祈禱とともに麒麟獅子舞が奉納される

2 3 4 例大祭前後の土日に行われる御幸祭では、迫力ある石段担ぎで宮出しされた神輿を先頭に武者行列などと共に約300軒の氏子宅前を門舞いしながら巡り、御旅所（マルイ国府店敷地）において麒麟獅子舞が奉納される

5 店舗内などで道すがら子どもの頭にかみつく麒麟獅子。頭をかまれた子どもは健康に育つといわれる

6 頭役を務める高校生に指導する保存会メンバー

7 東照宮祭礼絵巻（1766年）に登場する麒麟獅子（鳥取市歴史博物館所蔵）

写真提供／1・3・6 宇倍神社麒麟獅子舞保存会
2・5 角田 治
4 宇倍神社

※ 権現流…鳥取東照宮から伝わった正統な舞と囃子がこのように呼ばれる。ゆったりと威厳のある舞と囃子が特徴

文／角田 治

参考文献／
野津龍著『獅子の文化と因幡の麒麟獅子舞』（宇倍神社社務所刊）
原島知子著『因幡の麒麟獅子舞（鳥取県史ブックレット22）』（鳥取県刊、2021年）

宇倍神社麒麟獅子舞保存会と高校生6人（後列右端が山本会長）
写真提供／宇倍神社麒麟獅子舞保存会

宇倍神社麒麟獅子舞保存会
［住所］ 鳥取市国府町宮下
［代表者］ 山本 晃宏

オンリーワンのご当地ミュージアム 2

奥出雲たたらと刀剣館

（島根県奥出雲町）

原寸大模型や実演で たたら製鉄や刀づくりのプロセスを体感

館内では、日本で唯一たたら製鉄を続ける奥出雲町の「日刀保たたら」操業の様子を紹介。中央には、たたら炉の地下構造模型（原寸大）も展示されている

たたら製鉄の文化が色濃く残る奥出雲町

中世から近世にかけて、「たたら」と呼ばれる古来の製鉄法により、最盛期には日本の鉄の8割を生産していた山陰地域。その中心となった島根県安来市・雲南市・奥出雲町では、鉄の文化を後世に伝えるべく「鉄の道文化圏」を構成しており、その中の一施設として1993（平成5）年に開館したのが、「奥出雲たたらと刀剣館」だ。

本館に入ると、奥出雲町に残るたたら関連史跡の紹介があり、当時の道具や製鉄工場である「高殿」の模型が展示されている。その先に、長さ2mほどの黒い塊が目に入る。「�錣」と呼ばれる、砂鉄と木炭からなる鉄の塊だ。

この地域に伝わるたたら製鉄では、土でできた炉の中に木炭を燃やして砂鉄を振り入れ、3昼夜かけて鎚をつくる「鎚押し法」が用いられてきた。3日後、炉を崩して炉底に現れた鎚を取り出し、これを粉砕して刃物の原料となる「玉鋼」を採取した。

「この辺りは、山林が多く水も豊富で、砂鉄が採れる土質だったので、たたら製鉄が盛んに操業されました。土に含まれる砂鉄の量は、多くて0・3％ほど。必要とする砂鉄の300倍以上の山を切り崩し、鉄穴流し※という方法で砂鉄を採取していました」と奥出雲町定住産業課の佐伯行信さんは説明する。

山林は輪伐する区画を30カ所ほど決めておき、一度切った区画では、また30年かけて木を育てる。切り崩した山の斜面はそば畑などに利用され、運搬を担った牛のふんを肥料にした土壌改良により棚田へと再生した。こうした奥出雲の景観や循環型農業が後年評価され、現在は国の重要文化的景観や日本農業遺産に登録されている。

迫力ある原寸大のたたら炉地下構造

施設の見どころの一つが、日本で唯一の、原寸大のたたら炉地下構造模型だ。たたら炉の下には、水蒸気爆発を防ぐために、炭の層をいくつも積み重ねた炉床を乾燥させる地下構造が設けられており、その巨大で複雑な構造の断面を間近に見ることができる。

その隣には、たたら炉の両側に設置して風を送る「吹子」のコーナーがある。「地団駄を踏む」「かわりばんこ」の語源になった踏吹子や天秤鞴など、より多くの風を送れるように進化した吹子の変遷を知るとともに、実際に体験することもできる。

現在も操業している同町の日刀保たたら（旧靖国たたら）の地下構造を再現

気軽に訪れた人も楽しめる日本刀鍛錬実演

本館を出て通路を歩くと、日本刀の鍛錬場がある。ここでは、第2日曜日と第4土曜日の月2回、刀匠の小林俊司さんによる日本刀鍛錬の実演が行われている。

鍛錬とは、鉄を熱して叩き、折り畳む作業を10～15回繰り返すことで多数の層をつくり、鋼の炭素量を調整して作刀に適した素材へと変えていく工程を指す。

実演中は、燃えさかる炎の中で熱した鋼をカンカンカン！と叩く音が室内に繰り返し鳴り響き、来館者は鍛錬を行う刀匠へ質問を投げかけていく。「叩くときにパラパラと表面から落ちる粉はなんですか？」「刀と銃弾はどちらが強いですか？」といった質問に、小林さんは冗談を交えながら分かりやすく答え、実際に玉鋼や日本刀に触れる機会も設けている。

「小林家はもともと奥出雲で、たたらで得られる銑鉄を軟鉄に加工する大鍛冶をしていて、祖父の代から刀匠を始め、私は3代目になります。たたらの専門的な情報は多くの本に書かれているので、ここではふらっと立ち寄った人が見ても楽しめるように面白おかしく伝えるようにしています」と小林さん。軽妙なトークを聞いて、実際に日本刀を注文する人もいるそうだ。

ミシュラン・グリーンガイドで一つ星を獲得した同館には、アメリカやヨーロッパから訪れる人も多い。

2016（平成28）年に登録された日本遺産「出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」のガイドセンターにもなっている同館では、多言語対応なども進めながら、観光客がここを拠点に、たたら製鉄ゆかりの施設や遺跡を巡る動きを生み出していきたいとしている。

日本刀鍛錬実演。玉鋼を1200℃の高温で熱する

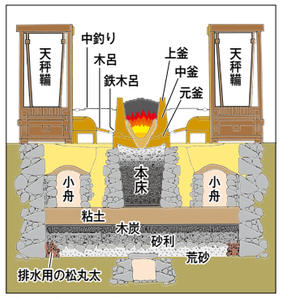
たたら製鉄でしかつくることのできない日本刀の材料「玉鋼」

叩いて延ばしながら何度も折り返して鍛錬する

実物の日本刀を片手に説明する小林刀匠

中庭にあるヤマタノオロチのモニュメントは、1985年のつくば科学万博で展示後に移設されたものである

シーソーのような構造で交互に踏んで風を送る天秤鞴



炉の地下構造の断面
炉の直下にある本床は炭が何層にも重なり、炉床を乾燥・保温する機能を持つ。小舟は本床の両側に設置されたトンネル状の空間で、地下構造を築く際は中に薪を詰めて周囲を乾燥させ、その後調湿を行う

奥出雲たたらと刀剣館
島根県仁多郡奥出雲町横田1380-1
☎0854-52-2770

奥出雲町定住産業課
佐伯行信さん（左）
2022年より同館を担当。町内の小学校では毎年、土で炉をつくり鞴で風を送って鋼をつくるたたら体験学習も行っている。

刀匠
小林俊司さん（右）
20代は警察官として働き、父の跡を継ぐべく32歳で刀匠の世界に。現役の刀匠は全国で180人ほどといわれており、その貴重な一人。

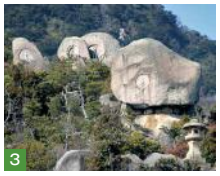
※ 鉄穴流し…砂鉄を含む岩石や土を水路に流し、比重の違いを生かして分離させながら砂鉄を採取する方法

文／城市 奈那

山をあるく 20

右田ヶ岳（みぎたがだけ）

《山口県》



1 石船山を越えて右田ヶ岳の山頂を目指す

2 道中、麓の山陽新幹線や、高速道路を走る車が見える

3 天徳寺コースの磨崖仏、三十三観音は大正時代に10年かけて刻まれた

4 2011年公開の映画『アントキノイノチ』のロケ地となりその名が付いた「アントキノ岩」

写真提供／
右田地域おこし協議会

山頂には日章旗が掲げられ、眼下に防府平野と瀬戸内海が広がる

瀬戸内海に面する山口県中南部の防府市にある標高426mの右田ヶ岳は、佐波川（さば）の水運と幕末の志士が往来した歴史街道・萩往還※を押さえた要衝に位置する。江戸時代初期までは右田氏が築城した山城があったとされ、勝坂（かっさか）登山口には、幕末の砲台跡として石垣が残る。

源頼朝が創建したと伝わる天徳寺を起点としたルートから登ると、程なく観音堂が姿を現す。ここから石船山（せきせんざん）山頂までの岩々には三十三体の観音様が刻まれている。麓に走る新幹線の音が響く中、次々と現れる磨崖仏（まがいぶつ）を見ながら岩山を進むと、最初のピークに到達する。

石船山を越えた先は両手両足を使いながらの険しい岩稜の急登が続き、分岐を右へ進むと右田ヶ岳山頂だ。日章旗の先に防府平野が広がる。広場の木に吊された鐘を鳴らすと澄んだ音色が響く。

帰りは勝坂コースから城跡である西ノ峰を通って、切り立った「アントキノ岩」の脇からロープをつたって慎重に下りる。奇岩や巨岩の道をひたすら下れば砲台跡に到着だ。そこから、萩往還を通ってスタート地点の天徳寺へ戻ることもできる。

地図制作：磯部 祥行

※ 萩往還…萩市と防府市を結ぶ全長約53kmの街道。江戸時代に参勤交代のために整備された

いいことプラス Energia

◎「碧い風」VOL.109　2024年2月1日発行

発行人：長谷 雅登　編集人：城市 奈那
●企画・発行：中国電力株式会社　地域共創本部
〒730-8701 広島市中区小町4-33　☎082（544）2759
［ホームページ（碧い風）］https://www.energia.co.jp/eneso/kankoubutsu/wind/index.html

●編集・制作：株式会社ジェイクリエイト
〒101-0052 千代田区神田小川町3-7-13 ヴァンサンクビル6F　☎03（6273）7135

ISSN 0918-9335

禁・無断転載